

(2) 麦 類

作物	農 薬 名	特 性	対象雑草名	処理法	使用時期／回数	
					本県の使用基準	農薬使用基準
ア 播種 耕起前 処理剤	カルナクス 草枯らしMIC グリホサート イソプロピルアミン塩 41.0%	吸収移行型 の非選択性 除草剤である。	一年生雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	麦類(小麦を除く): 耕起7日前まで (雑草生育期) / 1	同左
					小麦: 播種7日以前 (雑草生育期) / 3	小麦: 耕起前または播種前まで(雑草生育期: 草丈30cm以下)、播種後出芽前(雑草生育期) / 3
	ザクサ液剤 グルホシネートPナトリウム塩 11.5%	吸収移行型 の非選択性 除草剤である。	一年生雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	小麦、大麦: 耕起または播種前(雑草生育期) / 1	同左
	サンフーロン液剤 グリホサート イソプロピルアミン塩 41.0%	吸収移行型 の非選択性 除草剤である。	一年生雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	麦類(小麦を除く): 耕起7日前まで(雑草生育期: 草丈30cm以下) / 3	同左
					小麦: 耕起7日前まで(雑草生育期) / 1	同左
	タッチダウンiQ グリホサートカリウム塩 44.7%	吸収移行型 の非選択性 除草剤である。	一年生雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	耕起または播種前(雑草生育期) / 1 (大麦: 3)、 播種後出芽前(雑草生育期: 草丈30cm以下) / 1	同左
	バスタ液剤 グルホシネート 18.5%	吸収移行型 の非選択性 除草剤である。	一年生雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	播種前(雑草生育期) / 1	同左
					播種後出芽前(雑草生育期) / 1	同左
	ブリグロックSL ジクワット 7.0% パラコート 5.0%	非ホルモン 型の非選択 性接触型の 除草剤である。	一年生雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	播種前 / 4	播種前または播種後出芽前 / 4
	ラウンドアップマックスロード グリホサートカリウム塩 48.0%	吸収移行型 の非選択性 除草剤である。	一年生雑草及び 多年生イネ科雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	耕起前または播種前まで(雑草生育期) / 3、 播種後出芽前(雑草生育期) / 3	同左

10 a 当たり 使用薬量	本県での 適用土壌	散 布 方 法	使 用 上 の 注 意 事 項
250～500ml	—	10 a 当たり100リットル（小麦：25～100リットル）の水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. グリホサート関係成分を含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. 雑草の葉面が軽く均一にぬれる程度に散布する。 3. 付近の作物にかからないようにする。 4. 散布後6時間以内の降雨は効果を減じるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5. 散布後2～14日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要する。 6. 展着剤の加用は必要ない。
300～500ml	—	10 a 当たり100～150リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. グリホサート及びグリホサートPを含む農薬の総使用回数は4回以内とする。 2. 付近の作物にかからないようにする。 3. 薬液が雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 4. 雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので、草丈30cmを目安に散布する。 5. 散布直後（1時間程度）の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。
250～500ml	—	10 a 当たり50～100リットルの水に溶き、専用ノズルで散布する。	1. グリホサート関係成分を含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. 雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 3. 付近の作物にかからないようにする。 4. 散布後6時間以内の降雨は効果を減じるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5. 散布後2～14日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要する。 6. 展着剤の加用は必要ない。
250～500ml	—	10 a 当たり25～100リットルの水に溶き、専用ノズルで散布する。	1. グリホサート関係成分を含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. 雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 3. 付近の作物にかからないようにする。 4. 散布後2時間以内の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5. 散布後2～4日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要する。 6. 展着剤の加用は必要ない。
大麦 300～500ml 小麦 300～750ml	—	10 a 当たり100～150リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. グリホサート及びグリホサートPを含む農薬の総使用回数は4回以内（ただし播種後は3回以内）とする。 2. 雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 3. 付近の作物にかからないように散布する。 4. 散布後6時間以内の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5. 散布後2～5日で効果が発現する。 6. 展着剤の加用は必要ない。
300～500ml			
600～1000ml	—	10 a 当たり100～150リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. ジクワット、バラコトを含む農薬の総使用回数はそれぞれ4回以内とする。 2. 雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 3. 付近の作物にかからないようにする。 4. 展着剤の加用の必要はないが、加用する場合には非イオン系展着剤を使用する。（農業用展着剤の項を参照。）
200～500ml	—	（通常散布）10 a 当たり50～100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。 （少量散布）10 a 当たり5～50リットルの水に溶き、専用ノズルで散布する。	1. グリホサート関係成分を含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. 雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 3. 付近の作物にかからないようにする。 4. 散布後1時間以内の降雨は効果を減じるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5. 散布後2～7日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要する。 6. 展着剤の加用は必要ない。

麦類

作物	農 薬 名	特 性	対象雑草名	処理法	使用時期／回数	
					本県の使用基準	農薬使用基準
イ 播種後 土壌処 理剤	サターンバアロ粒剤 プロメトリン 0.80% ベンチオカーブ 8.0%	非ホルモン型の非選択性接触型の除草剤である。	一年生雑草	土壌処理 (全面土壌散布)	播種後～発芽前 (雑草発生前)／1	同左
					—	生育初期(麦の4葉期まで、スズメノテッポウ1.5葉期まで)／1
	トレファノサイド乳剤 トリフルラリン 44.5%	非ホルモン型の非選択性接触型の除草剤である。	一年生雑草(ソコクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	土壌処理 (全面土壌散布)	播種後発芽前 (雑草発生前)／2	同左
			一年生イネ科雑草		—	生育期(雑草発生前)(ただし収穫45日前まで)／2
	トレファノサイド粒剤2.5 トリフルラリン 2.5%	非ホルモン型の非選択性接触型の除草剤である。	一年生雑草(ソコクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	土壌処理 (全面土壌散布)	播種後発芽前／2	同左
			一年生イネ科雑草		—	生育期(雑草発生前)(ただし収穫45日前まで)／2
	ゴーゴーサン乳剤 ベンディメタリン 30.0%	非ホルモン型の非選択性接触型の除草剤である。	一年生雑草	麦類(小麦を除く) ：土壌処理 (全面土壌散布)	播種後出芽前 (雑草発生前)／1	同左
				小麦： 土壌処理(全面土壌散布) または茎葉処理(雑草茎葉散布)	播種後(雑草発生前)～小麦2葉期(イネ科雑草1葉期まで)／1	同左
	ゴーゴーサン細粒剤F ベンディメタリン 2.0%	非ホルモン型の非選択性接触型の除草剤である。	一年生雑草	土壌処理 (全面土壌散布)	播種後出芽前 (雑草発生前)／1	同左
	クリアターン細粒剤F ベンチオカーブ 8.0% ベンディメタリン 0.8% リニュロン 1.2%	非ホルモン型の非選択性接触型の除草剤である。	一年生雑草	土壌処理 (全面土壌散布)	播種直後 (雑草発生前)／1	同左
	クリアターン乳剤 ベンチオカーブ 50.0% ベンディメタリン 5.0% リニュロン 7.5%	非ホルモン型の非選択性接触型の除草剤である。	一年生雑草	土壌処理 (全面土壌散布)	播種直後 (雑草発生前)／1	同左

10 a 当たり 使用薬量	本県での 適用土壌	散 布 方 法	使 用 上 の 注 意 事 項
小麦： 3～4kg 4～6kg 大麦： 3kg 4～5kg	砂壤土 壤土～埴土 砂壤土 壤土～埴土	手まきまたは散 粒機等で均一に 散布する。	1. プロトリツ、ベンチカーフを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内、1回とする。 2. 播種深度が浅い場合、土壌が過湿の場合、砂質土の場合は薬害がでやすいので使用しない。 3. 土壌が極端に乾燥していると効果が劣るので、降雨後等適度な湿り気を持たせて散布する。 4. 雑草発生前にむらなく均一に散布する。 5. 付近の作物にかからないようにする。
小麦： 3～4kg 3～5kg 大麦： 3～4kg 3～5kg	砂壤土 壤土～埴土 砂壤土 壤土～埴土		
200～300ml	砂壤土～埴土	10 a 当たり100リ ットルの水に溶き、 噴霧機等で散布 する。	1. トリフルリンを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2. タネツケバナにはやや効果が劣る。 3. 大麦には薬害がでやすいので砂質土では使用しない。 4. 土壌が極端に乾燥していると効果が劣るので、散布水量を多くするか、降雨後に使用する。 5. 排水不良田など過湿条件では碎土、覆土が不十分となり、効果むらや薬害が発生するおそれがあるので使用しない。 6. 発生している雑草には効果がないので、発生前に均一散布する。
4～5 kg	砂壤土～埴土	手まきまたは散 粒機等で均一に 散布する。	1. トリフルリンを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2. タネツケバナにはやや効果が劣る。 3. 大麦には薬害がでやすいので砂質土では使用しない。 4. 土壌が極端に乾燥していると効果が劣るので、降雨後等適度な湿り気を持たせて散布する。 5. 風などで散布むらを生じないようにし、均一散布に努める。 6. 排水不良田など過湿条件では碎土、覆土が不十分となり、効果むらや薬害が発生するおそれがあるので使用しない。 7. 発生している雑草には効果がないので、発生前に均一散布する。
300～500ml	砂壤土～埴土	10 a 当り70～150 リットル（小麦：70 ～100リットル）の水 に溶き、噴霧機 等で散布する。	1. ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数は1回とする。 2. 雑草の発芽前処理の効果が高く、使用時期が遅れないこと。 3. キク科雑草、ツユクサには効果が劣る。 4. 土壌が極端に乾燥していると効果が劣るので、散布水量を多くするか、降雨後に使用する。 5. 激しい降雨が予想される時、排水不良田などでは使用を避ける。 6. 碎土、整地をていねいに行い、覆土深は2～3 cmとする。
5～6 kg	砂壤土～埴土	手まきまたは散 粒機等で均一に 散布する。	1. ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数は1回とする。 2. 雑草の発芽前処理の効果が高く、使用時期が遅れないこと。 3. キク科雑草、ツユクサには効果が劣る。 4. 土壌が極端に乾燥していると効果が劣るので、降雨後等適度な湿り気を持たせて散布する。 5. 激しい降雨が予想される時、排水不良田などでは使用を避ける。 6. 碎土、整地をていねいに行い、覆土深は2～3 cmとする。
4～5 kg	全土壌（砂土 を除く）	手まきまたは散 粒機等で均一に 散布する。	1. ベンチカーフ、ベンディメタリン、リニロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回とする。 2. 播種、覆土後なるべく早く散布し、作物出芽後は使用しない。 3. 土壌が極端に乾燥していると効果が劣るので、降雨後等適度な湿り気を持たせて散布する。 4. 裸麦では薬害のでるおそれがあるので注意する。 5. 付近の作物にかからないように散布する。 6. 雑草発生後の散布は効果が劣るので、発生前に散布する。
500～700ml	全土壌（砂土 を除く）	10 a 当たり70～ 100リットルの水に溶 き、噴霧機等で 散布する。	1. ベンチカーフ、ベンディメタリン、リニロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回とする。 2. 播種、覆土後なるべく早く散布し、作物出芽後は使用しない。 3. 土壌が極端に乾燥していると効果が劣るので、散布水量を多くするか、降雨後に使用する。 4. 裸麦では薬害のでるおそれがあるので注意する。 5. 付近の作物にかからないように散布する。 6. 雑草発生後の散布は効果が劣るので、発生前に散布する。

麦類

作物	農 薬 名	特 性	対象雑草名	処理法	使用時期／回数	
					本県の使用基準	農薬使用基準
イ 播種後土壌処理剤	ガレースG ジフルフェニカン トリフルラリン 0.15% 2.0%	非ホルモン型の非選択性接触型の除草剤である。	畑地一年生雑草	土壌処理（全面土壌散布）	播種後発芽前（雑草発生前）／1	小麦（春播、秋播）、大麦（秋播）：播種後発芽前（雑草発生前）／1、小麦（秋播）、大麦（秋播）：麦1～2葉期（雑草発生前～発生始期）／1
	ボクサー プロスルホカルブ 78.4%	非ホルモン型の非選択性接触型の除草剤である。SU剤等抵抗性スズメノテッポウにも効果を示す。	一年生雑草	土壌処理（全面土壌散布）または茎葉処理（雑草茎葉散布）	麦類（秋播）：播種後～麦2葉期まで（雑草発生前～雑草発生始期）／2	小麦（秋播）、大麦（秋播）：播種後～麦2葉期（雑草発生前～発生始期）／2、小麦（春播）、大麦（春播）：播種後出芽前～出芽揃期（雑草発生前～発生始期）、小麦（秋播）：麦2～4葉期（雑草発生前～発生始期）／2
	キックボクサー細粒剤F プロスルホカルブ リニュロン 7.0% 1.75%	非ホルモン型の非選択性接触型の除草剤である。SU剤等抵抗性スズメノテッポウにも効果を示す。	一年生雑草	土壌処理（全面土壌散布）	小麦（秋播）、大麦（秋播）：播種後～出芽前（雑草発生前）／1	同左
	ムギレンジャー乳剤 プロスルホカルブ リニュロン 46.0% 11.5%	非ホルモン型の非選択性接触型の除草剤である。SU剤等抵抗性スズメノテッポウにも効果を示す。	一年生雑草	土壌処理（全面土壌散布）	播種後出芽前（雑草発生前）／1	同左
	リベレーターフロアブル ジフルフェニカン フルフェナセット 8.4% 33.6%	非ホルモン型の非選択性接触型の除草剤である。SU剤等抵抗性スズメノテッポウにも効果を示す。	一年生雑草	土壌処理（全面土壌散布）または茎葉処理（雑草茎葉散布）	小麦、大麦：播種後～3葉期（雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで）／1	同左
	リベレーターG ジフルフェニカン フルフェナセット 0.2% 0.6%	非ホルモン型の非選択性接触型の除草剤である。SU剤等抵抗性スズメノテッポウにも効果を示す。	一年生雑草	土壌処理（全面土壌散布）	小麦、大麦：播種後～2葉期（雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで）／1	同左

10 a 当たり 使用薬量	本県での 適用土壌	散 布 方 法	使 用 上 の 注 意 事 項
4 ～ 5 kg	全土壌（砂土を除く）	手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1. ジフルフェカン、トリフルリンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回、2回以内とする。 2. 土壌が極端に乾燥していると効果が劣るので、降雨後等適度な湿り気を持たせて散布する。 3. 排水不良田など過湿条件では碎土、覆土が不十分となり、効果むらや薬害が発生するおそれがあるので使用しない。 4. 麦の葉身に白斑が見られる場合があるが、その後回復し、麦の生育、収量に影響はない。 5. 砂質土壌では裸麦に薬害を生じるおそれがあるので使用しない。 6. 雑草発生前から発生始期に有効なので、散布時期を逸しない。
400～500ml	—	10 a 当たり70～100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. プロスルホルフを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2. 土壌が極端に乾燥していると効果が劣ることがあるので、希釈水量を多くするか、降雨後等適度な湿り気を持たせて散布する。 3. 黄斑、縮葉を生じることがあるが、その後の生育に影響はない。 4. 排水不良の畑では薬害が生じるおそれがあるため使用しない。 5. 処理後に大量の降雨が予想される場合は使用しない。 6. 碎土、整地をていねいに行い、種子が露出しないように覆土する。 7. S U 剤等抵抗性スズメタマゴを対象とする場合は、薬量を所定範囲内で多めにする。
3 ～ 4 kg	全土壌（砂土を除く）	手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1. プロスルホルフ、リニロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、1回以内とする。 2. 土壌が極端に乾燥していると効果が劣ることがあるので、土壌が適度な水分を含んでいるときに散布する。 3. 黄斑、縮葉、生育抑制を生じることがあるが、その後の生育に影響はない。 4. 排水不良の畑では薬害が生じるおそれがあるため使用しない。 5. 処理後に大量の降雨が予想される場合は使用しない。 6. 碎土、整地をていねいに行い、種子が露出しないように覆土する。 7. S U 剤等抵抗性スズメタマゴ、ハコベ、ミノフスマを対象とする場合は、薬量を所定範囲内で多めにする。
400～600ml	全土壌（砂土を除く）	10 a 当たり50～100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. プロスルホルフ、リニロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内、1回とする。 2. 雑草が発生した後の散布は効果が劣るので、雑草の発生前に使用する。 3. 砂壌土（特に裸麦）では黄化、生育抑制を生じる場合があるので、登録範囲内の低めの薬量で使用する。 4. 激しい降雨が予想される時や水はけが悪く冠水、浸水しやすい畑では薬害のおそれがあるので使用しない。 5. 碎土、整地をていねいに行い、覆土深は2～3 cmとする。 6. 特に、アブラナ科、ウリ科、ナス科及びマメ科の作物は影響を受けやすいので、処理後3か月以内にこれらを後作物として栽培しない。 7. S U 剤等抵抗性スズメタマゴを対象とする場合は、薬量を所定範囲内で多めにする。
60～80ml	全土壌（砂土を除く）	10 a 当たり100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. ジフルフェカン、フルフェサットを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回とする。 2. 麦の葉身に白斑が見られることがあるが、その後回復し、麦の生育、収量には影響はない。 3. 碎土、整地をていねいに行い、覆土深は2～3 cm以上とする。 4. 排水不良田など過湿条件では碎土、覆土が不十分となり、効果むらや薬害が発生するおそれがあるので使用しない。 5. 処理後に大量の降雨が予想される場合は使用しない。 6. 播種深度が浅い場合、薬害を生ずる場合があるので使用しない。 7. S U 剤等抵抗性スズメタマゴを対象とする場合は、薬量を所定範囲内で多めにする。
4 ～ 5 kg	全土壌（砂土を除く）	手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1. ジフルフェカン、フルフェサットを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回とする。 2. 麦の葉身に白斑が見られることがあるが、その後回復し、麦の生育、収量には影響はない。 3. 碎土、整地をていねいに行い、覆土深は2～3 cm以上とする。 4. 排水不良田など過湿条件では碎土、覆土が不十分となり、効果むらや薬害が発生するおそれがあるので使用しない。 5. 処理後に大量の降雨が予想される場合は使用しない。 6. 播種深度が浅い場合、薬害を生ずる場合があるので使用しない。 7. S U 剤等抵抗性スズメタマゴを対象とする場合は、薬量を所定範囲内で多めにする。

麦類

作物	農 薬 名	特 性	対象雑草名	処理法	使用時期／回数	
					本県の使用基準	農薬使用基準
ウ 生育期 処理剤	アクチノールB乳剤 アイオキシニル 30.0%	非ホルモン 型の非選択 性接触型の 除草剤であ る。	畑地一年生広葉雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散 布)	穂ばらみ期まで (一年生広葉雑草の 発生揃、2または3 節期)／2	穂ばらみ期まで (雑草生育初期) ／2
	バサグラン液剤 ベンタゾンナトリウム塩 40.0%	非ホルモン 型の吸収移 行性除草剤 である。	一年生雑草 (イネ科を除く)	雑草茎葉散布 又は全面散布	麦類(小麦を除 く)：生育期但し収 穫90日前まで／1 小麦：生育期但し収 穫45日前まで／1	麦類(小麦を除 く)：生育期但し 収穫90日前まで／ 1 小麦：生育期但し 収穫45日前まで／ 1
	ハーモニー細粒剤F チフェンスルフロンメチル 0.15%	非ホルモン 型の吸収移 行性除草剤 である。	一年生広葉雑草、 ノテツポウ	茎葉兼土壌処理 (全面土壌 散布)	麦1～3葉期 (雑草発生前～ 発生始期)／1	播種後～麦3葉期 (雑草発生前～ 発生始期)／1
	エコパートフロアブル ピラフルフェンエチル 2.0%	非ホルモン 型の非選択 性接触型の 除草剤であ る。	一年生広葉雑草	茎葉処理 (雑草茎葉 散布)	節間伸長開始期まで (一年生広葉雑草2 ～4葉期)(ただ し、収穫45日前ま で)／2	小麦(秋播)：小 麦節間伸長開始期 まで(広葉雑草2 ～4葉期、ヤエム グラ2～6節期) (ただし、収穫45 日前まで)／2 大麦：大麦節間伸 長開始期まで(広 葉雑草2～4葉 期)(ただし、収 穫45日前まで)／ 2
	MCPソーダ塩 MCPAナトリウム塩 19.5%	ホルモン型 の吸収移行 性除草剤で ある。	一年生及び多年生 広葉雑草	雑草茎葉散布 又は全面散布	麦類(秋播麦類)： 幼穂形成期但し、収 穫45日前まで／1	麦類(秋播麦 類)：幼穂形成期 但し、収穫45日 前まで／1
エ 圃場内 周縁部 処理剤	ザクサ液剤 グルホシネートPナトリウム塩 11.5%	吸収移行型 の非選択性 除草剤であ る。	一年生雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散 布)	小麦、大麦：圃場内 周縁部 収穫7日前まで(雑 草生育期)／3	同左
	タッチダウンiQ グリホサートカリウム塩 44.7%	吸収移行型 の非選択性 除草剤であ る。	一年生雑草	茎葉処理 (雑草茎葉 散布)	圃場内周縁部(雑草 生育期：草丈30cm以 下)(ただし大麦： 収穫7日前まで、小 麦(秋播)収穫3日 前まで／大麦：3、 小麦(秋播)：1	同左
	バスタ液剤 グルホシネート 18.5%	吸収移行型 の非選択性 除草剤であ る。	一年生雑草	茎葉処理 (雑草茎葉 散布)	小麦、大麦：圃場内 周縁部 収穫7日前まで (雑草生育期)／3	同左

10 a 当たり 使用薬量	本県での 適用土壌	散 布 方 法	使 用 上 の 注 意 事 項
100～200ml	砂壤土～埴土	10 a 当たり70～100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. アイカリニルを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2. イネ科雑草、コニシキソウには効果が少ない。 3. 薬剤を雑草に十分付着させるため露がなくなってから散布する。 4. 除草効果は遅効的である。 5. 付近の作物にかからないようにする。 6. 軽微な葉枯れを生じる場合があるが、その後の生育に影響しない。 7. 展着剤は加用しない。
100～200ml	砂壤土～埴土	10 a 当たり70～100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. ベンザジンを含む農薬の総使用回数は1回以内とする。 2. イネ科雑草には効果がない。イネ科雑草が混在する場合はこれらに有効な除草剤との体系で使用する。 3. 散布直後に降雨が予想される場合は使用を避ける。 4. 重複散布は葉害の恐れがあるので避ける。 5. 周辺作物に飛散しないように注意する。 6. 「はだか麦・大麦」は、使用時期が「収穫90日前まで」であるため、散布時期に注意する。
4～5 kg	全土壌（砂土を除く）	手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1. チフェンシルフロンメチルを含む農薬の総使用回数は1回とする。 2. 体系処理の場合は、土壌処理剤との体系で使用する。 3. 散布直後に降雨が予想される場合は使用を避ける。
50～100ml	砂壤土～埴土	10 a 当たりの100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. ピラフルフェンエチルを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2. 展着剤は葉害を助長するおそれがあるので使用しない。 3. 殺虫剤、殺菌剤との混用は避ける。 4. 麦踏み後数日間は使用を避ける。 5. 付近の作物にかからないようにする。 6. 散布直後に降雨が予想される場合は使用を避ける。 7. 白色斑点を生じる場合があるがその後の生育に影響しない。 8. 効果の発現は早く、低温条件でも効果は高い。 9. イネ科雑草には効果がない。
200～300g	砂壤土～埴土	10 a 当たり70～100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. MCPAを含む農薬の総使用回数は1回以内とする。 2. 「カラスノエンドウ」に対する効果が高い。 3. 周辺作物に飛散しないように注意する。 4. 分げつ抑制作用があるため、茎数が十分確保されてから散布する。 5. 暖かい日が続く時期に散布すると、除草効果が高い。
300～500ml	—	10 a 当たり100～150リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. グルホシネート及びビグルホシネートPを含む農薬の総使用回数は4回以内とする。 2. 付近の作物にかからないようにする。 3. 薬液が雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 4. 雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので、草丈30cmを目安に散布する。 5. 散布直後（1時間程度）の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。
250～500ml	—	10 a 当たりの25～50リットルの水に溶き、専用ノズル等で散布する。	1. グルホシネート関係成分を含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. 本剤は大麦のみを対象とする。 3. 雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 4. 付近の作物にかからないようにする。 5. 散布後2時間以内の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。 6. 散布後2～4日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要する。 7. 展着剤の加用は必要ない。
300～500ml	—	10 a 当たりの100～150リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. グルホシネート及びビグルホシネートPを含む農薬の総使用回数は4回以内（ただし播種後は3回以内）とする。 2. 雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 3. 付近の作物にかからないように散布する。 4. 散布後6時間以内の降雨は効果を減じるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5. 散布後2～5日で効果が発現する。 6. 展着剤の加用は必要ない。

(3) だ い ず

作物	農 薬 名	特 性	対象雑草名	処理法	使用時期／回数	
					本県の使用基準	農薬使用基準
エ 圃場内周縁部 処理剤 オ 播種耕起前 処理剤	ラウンドアップマックスロード グリホサートカリウム塩 48.0%	吸収移行型の非選択性除草剤である。	一年生雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	圃場内周縁部 (雑草生育期) (ただし収穫前日 前まで) / 3	同左
	バスタ液剤 グルホシネート 18.5%	吸収移行型の非選択性除草剤である。	一年生雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	播種前 (雑草生育期) / 3	播種前 (雑草生育期) / 3 定植5日前まで (雑草生育期) / 3
	ラウンドアップマックスロード グリホサートカリウム塩 48.0%	吸収移行型の非選択性除草剤である。	一年生雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	耕起前または出芽前 まで (雑草生育期) / 2	同左
カ 播種後土壌 処理剤	ザクサ液剤 グルホシネートPナトリウム塩 11.5%	吸収移行型の非選択性除草剤である。	一年生雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	収穫28日前まで (雑草生育期 は 種・定植前) / 3	収穫28日前まで (雑草生育期 は 種・定植前または 畦間処理) / 3
	サターンバアロ乳剤 プロメトリン 5.0% ベンチオカーブ 50.0%	非ホルモン型の接触兼移行性の除草剤である。	一年生雑草	土壌処理 (全面土壌散布)	播種後発芽前 / 1	同左
	トレファノサイド乳剤 トリフルラリン 44.5%	非ホルモン型性除草剤である。	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	土壌処理 (全面土壌散布)	播種後発芽前 / 1	播種前 (全面土壌混和) / 1 播種後発芽前 (全面土壌散布) / 1 定植前 (植穴掘前) (全面土壌散布) / 1 生育期 (畦間土壌散布) (ただし収穫45日 前まで) / 1
	トレファノサイド粒剤 2.5 トリフルラリン 2.5%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	土壌処理 (全面土壌散布)	播種後発芽前 / 1	播種後発芽前 (全面土壌散布) / 1 定植前 (植穴掘前) (全面土壌散布) / 1 生育期 (畦間土壌散布) (ただし収穫45日 前まで) / 1
	クリアターン細粒剤 F ベンチオカーブ 8.0% ベンディメタリン 0.8% リニユロン 1.2%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。	一年生雑草	土壌処理 (全面土壌散布)	播種直後 (雑草発生前) / 1	同左

10 a 当たり 使用薬量	本県での 適用土壌	散 布 方 法	使 用 上 の 注 意 事 項
200～500ml	—	(通常散布) 10 a 当たり50～100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。 (少量散布) 10 a 当たり25～50リットルの水に溶き、専用ノズルで散布する。	1. グリホサート関係成分を含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. 雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 3. 薬液が作物に直接かからないように飛散防止カバーを使い、散布圧を低くするなどして散布する。 4. 散布後1時間以内の降雨は効果を減じるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5. 散布後2～7日で効果が発現し、効果完成までにさらに日数を要する。 6. 展着剤の加用は必要ない。
300～500ml	—	10 a 当たり100～150リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. グリホサート及びグリホサートPを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. 雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 3. 付近の作物にかからないように散布する。 4. 散布後6時間以内の降雨は効果を減じるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5. 散布後2～5日で効果が発現する。 6. 展着剤の加用は必要ない。
200～500ml	—	(通常散布) 10 a 当たり50～100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。 (少量散布) 10 a 当たり25～50リットルの水に溶き、専用ノズルで散布する。	1. グリホサート関係成分を含む農薬の総使用回数は4回以内とする。 2. 雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 3. 付近の作物にかからないように散布する。 4. 散布後1時間以内の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5. 散布後2～7日で効果が発現し、効果完成までにさらに日数を要する。 6. 展着剤の加用は必要ない。
300～500ml	—	10 a 当たり100～150リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. グリホサート及びグリホサートPを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. 付近の作物にかからないようにする。 3. 薬液が雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 4. 雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので、早めに散布する。 5. 散布直後(1時間程度)の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。 6. 散布後1～3日で効果が発現し、7～14日で効果が最大となる。 7. 展着剤の加用は必要ない。 8. 豆類(種実、ただし、らっかせいを除く)で登録がある。
600～800ml	壤土～埴土	10 a 当たり70～100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. プロメトリ、ベンチカーフを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回とする。 2. 砂土では使用しない。 3. 土壌が極端に乾燥していると効果が劣る場合があるので、散布水量を多くするか、降雨後に使用する。 4. 付近の作物にかからないように散布する。 5. 雑草の発生直前から発生始期までの散布の効果が高いので、播種後早めに散布する。
200～300ml	—	10 a 当たり100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. トリフルアリンを含む農薬の総使用回数は2回以内(ただし、全面土壌混和及び全面土壌散布は合計1回以内、畦間土壌散布は1回以内)とする。 2. 付近の作物にかからないように散布する。 3. 土壌が極端に乾燥していると効果が劣る場合があるので、散布水量を多くするか、降雨後に使用する。 4. 碎土及び整地はていねいに行う。 5. 発生している雑草には効果がないので、発生前に均一散布する。
4～6 kg	砂壤土～埴土	手まきまたは散布機等で均一に散布する。	1. トリフルアリンを含む農薬の総使用回数は2回以内(ただし、全面土壌散布は1回以内、畦間土壌散布は1回以内)とする。 2. 碎土及び整地はていねいに行う。 3. 発生している雑草には効果がないので、発生前に均一散布する。 4. 付近の作物にかからないように散布する。 5. 土壌が極端に乾燥していると効果が劣る場合があるので、降雨後等適度な湿り気を持たせて散布する。
4～5 kg	全土壌(砂土を除く)	手まきまたは散布機等で均一に散布する。	1. ベンチカーフ、ペンディメタリン、リニuronを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回、1回、2回以内(ただし、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内)とする。 2. 播種、覆土後なるべく早く散布し、作物出芽後は使用しない。 3. 土壌が極端に乾燥していると効果が劣る場合があるので、降雨後等適度な湿り気を持たせて散布する。 4. 付近の作物にかからないように散布する。 5. 雑草発生後の散布は効果が劣るので、発生前に散布する。

だいず

作物	農 薬 名	特 性	対象雑草名	処理法	使用時期／回数	
					本県の使用基準	農薬使用基準
ア 播 種 後 土 壌 処 理 剤	クリアターン乳剤 ベンチオカーブ 50.0% ベンディメタリン 5.0% リニュロン 7.5%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。	一年生雑草	土壌処理 (全面土壌散布)	播種直後 (雑草発生前)／1	同左
	—	—	—	—	—	定植3日前まで (雑草発生前)／1
	ラクサー粒剤 アラクロール 4.0% リニュロン 1.04%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。	一年生雑草	土壌処理 (全面土壌散布)	播種後出芽前 (雑草発生前)／1	同左
	—	—	—	—	—	—
イ 生 育 期 処 理 剤	ワンサイドP乳剤 フルアジホップP 17.5%	吸収移行型の選択性除草剤である。	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期) (ただし、収穫60日前まで)／1	同左
	ナブ乳剤 セトキシジム 20.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	雑草生育期(イネ科雑草9～10葉期) (ただし、収穫30日前まで)／1	同左
	大豆バサグラン液剤 ペンタゾンナトリウム塩 40.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。	一年生雑草(イネ科)	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	だいずの2葉期～開花前(雑草の生育初期～6葉期) (ただし、収穫45日前まで)／1	同左
	ポルトフロアブル キザロホップエチル 7.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	雑草生育期(イネ科雑草の3～10葉期) (ただし、収穫30日前まで)／1	同左
ウ 生 育 期 畦 間 処 理 剤	バスタ液剤 グルホシネート 18.5%	吸収性移行型の非選択性除草剤である。	一年生雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	収穫28日前まで (畦間処理：雑草生育期)／3	同左
	—	—	—	—	—	—
	ラウンドアップマックスロード グリホサートカリウム塩 48.0%	吸収移行型の非選択性除草剤である。	一年生雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	収穫前日まで (雑草生育期：畦間処理)／2	同左
	ザクサ液剤 グルホシネートPナトリウム塩 11.5%	吸収移行型の非選択性除草剤である。	一年生雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	収穫28日前まで (雑草生育期：畦間処理)／3	同左

10 a 当たり 使用薬量	本県での 適用土壌	散 布 方 法	使 用 上 の 注 意 事 項
500～800ml	全土壌(砂土 を除く)	10 a 当たり70～ 100リットルの水に溶 き、噴霧機等で 散布する。	1.ベンチカルブ、ベンディメタリン、リニロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回、1回、2回 以内（ただし全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内）とする。 2.播種、覆土後なるべく早く散布し、作物出芽後は使用しない。 3.土壌が極端に乾燥していると効果が劣る場合があるので、散布水量を多くするか、降 雨後に使用する。 4.付近の作物にかからないように散布する。 5.雑草発生後の散布は効果が劣るので、発生前に散布する。
500～700ml			
4～6 kg	全土壌(砂土 を除く)	手まきまたは散 布機等で均一に 散布する。	1.アトラール、リニロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回、2回以内（ただし全面土壌散 布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内）とする。 2.砂質土の保水力の小さい圃場では使用しない。 3.碎土、整地はていねいに行い、覆土深は2～3 cm以上とする。 4.土壌が極端に乾燥していると効果が劣る場合があるので、降雨後等適度な湿り気を持 たせて散布する。 5.雑草発生後の散布は効果が劣るので、発生前に散布する。
75～100ml	—	10 a 当たり25～ 100リットルの水に溶 き、噴霧機等で 散布する。	1.フルジホップ及びフルジホップPを含む農薬の総使用回数は1回とする。 2.広葉雑草及びカヤツリグサ科雑草には効果がないため、イネ科雑草（スズメノカタビ ラは除く）優占圃場で使用する。 3.イネ科作物にかからないようにする。 4.効果の発現は遅効的で、完全枯殺には15～20日要する。 5.特に展着剤を加用する必要はない。
150～200ml	—	10 a 当たり100～ 150リットルの水に溶 き、噴霧機等で 散布する。	1.セキジウムを含む農薬の総使用回数は1回とする。 2.広葉雑草及びカヤツリグサ科雑草には効果がないため、イネ科雑草（スズメノカタビ ラは除く）優占圃場で使用する。 3.イネ科作物にかからないようにする。 4.効果の発現は遅効的で、完全枯殺には7～10日要する。 5.特に展着剤を加用する必要はない。
100～150ml	—	10 a 当たり100リ ットルの水に溶き、噴 霧機等で散布す る。	1.ベンザジンを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2.広葉雑草優占圃場で使用する（イネ科雑草には効果がない）。 3.斑点、色抜け、黄変、縮葉等の一過性の薬害が生じることがある。 4.品種により薬害の程度が異なり、減収することがもある。 5.薬害を助長するので重複散布はしない。 6.著しい高温条件、強日射条件、だいずが生育不良な場合には薬害が助長されることが ある。 7.アカザ科、ヒユ科、トウダイグサ科には効果が劣る。 8.散布後、曇天、降雨日が続くと効果が劣ることがある。 9.展着剤の加用は必要ない。
200～300ml	—	10 a 当たり100リ ットルの水に溶き、噴 霧機等で散布す る。	1.セキホップエールを含む農薬の総使用回数は1回とする。 2.広葉雑草、カヤツリグサ科雑草には効果がないため、イネ科雑草（スズメノカタビラ は除く）優占圃場で使用する。 3.イネ科作物にかからないようにする。 4.完全枯殺には7～10日要する。 5.展着剤の加用は必要ない。
300～500ml	—	10 a 当たり100～ 150リットルの水に溶 き、噴霧機等で 散布する。	1.ケルボネット及びケルボネットPを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2.雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 3.薬液が作物に直接かからないように飛散防止カバーを使い、散布圧を低くするなどし て散布する。 4.散布後6時間以内の降雨は効果を減じるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5.散布後2～5日で効果が発現する。 6.展着剤の加用は必要ない。
200～500ml	—	（通常散布）10 a 当たり50～100 リットルの水に溶 き、噴霧機等で 散布する。 （少量散布）10 a 当たり25～50 リットルの水に溶 き、専用ノズル で散布する。	1.ケリネット関係成分を含む農薬の総使用回数は4回以内とする。 2.雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 3.薬液が作物に直接かからないように飛散防止カバーを使い、散布圧を低くするなどし て散布する。 4.散布後1時間以内の降雨は効果を減じるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5.散布後2～7日で効果が発現し、効果完成までにさらに日数を要する。 6.展着剤の加用は必要ない。
300～500ml	—	10 a 当たり100～ 150リットルの水に溶 き、噴霧機等で 散布する。	1.ケルボネット及びケルボネットPを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2.付近の作物にかからないようにする。 3.薬液が雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 4.雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので、早めに散布する。 5.散布直後（1時間程度）の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布 する。 6.散布後1～3日で効果が発現し、7～14日で効果が最大となる。 7.展着剤の加用は必要ない。 8.豆類(種実、ただし、らっかせいを除く)で登録がある。